

人がつながる田園都市 安芸高田

あきたかた
安芸高田市長(広島県) **浜田一義**
はまだかずよし
Kazuyoshi hamada



安芸高田の「甲」

安芸高田市は平成の大合併により平成16年3月1日に旧高田郡6町が合併して誕生しました。中国山地に位置する典型的な中山間地域の市です。戦国武将「毛利元就」の生誕の地であり、元就125万石の居城であった国史跡「郡山城」は日本100名城としての風格を現在に留めています。平成9年にはNHK大河ドラマ「毛利元就」が放送されて全国的な知名度が高まり、全国各地から多くの皆さまに本市に来ていただきまして、それは、われわれ、そして出身者にとって誇らしい事でした。また、平成28年3月には「甲立古墳」が新たに国史跡に指定



熱き舞が披露される「神楽甲子園」(毎年開催)

され、現在、2つの国史跡を有する市となりました。

本市はスポーツとの関わりが深く、サンフレッチェ広島(サッカー)、湧永レオリック(ハンドボール)のマザータウンとして市をあげて両チームを応援し、サポートしています。地域の方や地元の子どもたちと選手との交流が生まれるなど、スポーツを通しての地域づくりが盛んな町でもあります。伝統芸能の「神楽」も盛んで、市内では22の神楽団が活動しています。また、本市の誇るべき文化である神楽は、毎年7月に全国から出場校を募り「高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田」を開催して若者の伝統芸能の継承の一翼を担い、1月には「ひろしま安芸高田神楽東京公演」を開催して全国にその魅力を発信し続けています。その成果も実りつつあり、芸術性の高い日本の神事としてある程度の評価をいただきつつあります。

また、タイトルにあります「人がつながる田園都市 安芸高田」は市のスローガンであり、合併10年を迎え、平成27年度から次の10年の市の将来像として定めたものです。現在、実現に向けて日々、邁進しています。

マイ・プライベート・タイム

以前はゴルフに専念していましたが、市政に携わる身になってからは、時間を他人



「安芸高田市湧永庭園ウォーク」(前方で両手を上げているのが筆者)

に合わせる事が困難となり、最近読書と散歩がマイ・プライベート・タイムです。特に散歩は、毎日の日課となりました。本市の四季折々の風景は心を癒やしてくれます。また、古くからこの地方に伝わる「もやい」による地域の助け合いでの田植えの協働作業や、ボランティアによる地域の清掃活動、伝統芸能の神楽・田楽行事等による地域の皆さまとの素晴らしい出会いができて、大変楽しく散歩ができます。地域の実情を把握・実感する事ができます。この事こそが、地方行政の原点だと私は思います。この事に

より、住民の皆さまに満足していただける施策の展開ができると確信をしています。

身近な新公共交通システム 「お太助ワゴン」

家屋が点在する中山間地域では過疎化が進み、従来のバス路線を活用した交通体系の確立が非常に困難な状況にあります。高齢化により、自宅からバス停までの移動が大変困難な状況も多く生じています。そこで、本市では通院・買い物・文化活動など市民生活に幅広く活用できるドア・ツー・ドア（自宅から目的地まで）の新公共交通システム「お太助ワゴン」を構築しました。低料金で目的地までスムーズに移動ができるシステムとして、市民の皆さまから好評を得ています。



幅広いニーズに応え、好評を得ている新公共交通システム「お太助ワゴン」

持続的に市民の生活を守る 「市民総ヘルパー構想」

本市は、高齢化率38・1%（平成29年3月1日現在）と少子高齢化が著しく、将来にわたって高齢者を支える仕組み作りが課題となっています。本市には古くから伝わる「もやい」の風習があります。田植えをする時、皆が寄り合って田植えをし、自分の田植えが終わったら手伝ってくれた人の田植えをする。金銭で清算するのではなく、手伝い合う事で清算をする近所の助け合いの仕組が「もやい」です。私はこの仕組みを生かして自助・共助の理念のもとに、「市民総ヘルパー構想」を提唱いたしました。この構想は全ての市民の方が、防災機器の使用手法や介護知識を事前に習得され、一人一人に地域で活躍していただき、行政サービスの補完をしていただくものです。市民



自主的な介護予防活動をされている元気な皆さま

の皆さまにご理解・ご協力をいただくには時間がかかりましたが、最近では自分のこととして理解をしていただくようになりました。このことにより、自助・共助の一環として市民の皆さまの協力を得る事ができ、防災・福祉分野などの行政コストを削減する効果を生んでいます。

人材確保のための「多文化共生社会」 「男女共同参画社会」の実現

少子高齢化社会において、将来にわたって人材を確保することは、優先的な重要課題です。私は、「人種差別」「男女差別」の解消に取り組むと同時に、「多文化共生社会の実現」と「男女共同参画社会の実現」がこれからの人材確保のための重点施策と考えています。中山間地域である本市での農業・介護等の従事者の人材確保は深刻な課題となっています。これを解決するには、女性が活躍できる社会の構築や外国人の方の助けが必要です。女性の活躍社会を実現するには、家族や地域の協力、そして職場の環境づくりが必要です。また、外国人の方に日本で快く就労していただくためには、宗教や食文化を含む生活様式を理解していくことが大切です。本市では将来必要な人材を確保するために、他の自治体に先駆けて「人権多文化共生推進課」を設置して多文化共生事業、男女共同参画事業の推進を図っています。